

七色花

中国・四国中国帰国者支援・交流センター

社会福祉法人 広島県社会福祉協議会
〒732-0816 広島市南区比治山本町12-2
TEL 082-250-0210
FAX 082-254-2464
E-mail chushikoku-center@festa.ocn.ne.jp

福山地域帰国者教室

1月31日(日)福山市で料理交流会を行い、帰国者がお好み焼きに挑戦しました。参加者のほとんどが作るのも食べるのも初めての体験でした。広島風お好み焼きは薄い生地の上に材料を少しずつ重ね、上手にひっくり返せるかどうかポイントです。みんな食べるのも忘れて一生懸命焼きました。



ボランティア研修会～香川県～

2月6日(日)香川県高松市で研修会を行いました。これは帰国者支援に携わっている人や一般市民が対象で、27人の参加がありました。当日は朗読や体験発表があり、それを聞いて涙する参加者も少なくありませんでした。帰国者を理解し、温かく見守る市民が少しでも増えることを期待しています。



異文化交流会～日中料理作り～

2月2日(火)広島県廿日市市で男性の料理クラブとの地域交流会を開催しました。散らし寿司、カキフライ、桜餅などの日本料理と水餃子、青椒肉糸、麻婆豆腐などの中華料理と一緒に作りました。手品や秧歌、太極拳などを披露した後、節分の豆まきもあり、文化交流を満喫した一日となりました。



学習発表会

3月1日(月)中国帰国者支援・交流センターで学習発表会を行いました。センターで開講している講座の体験会や作品の展示、歌や太極拳の発表があり、一年間の受講の成果を評価し合いました。作品や発表内容は毎年レベルアップしており、早くも来年の発表会が楽しみです。



岩国地域帰国者教室

3月7日(日)岩国市で健康講座を開催しました。保健センターの職員の指導のもと、チェックリストにしたがって生活習慣の見直しをし、その後簡単な運動を習いました。参加者の食習慣は理想的でしたが、煙草はやめられない…という声もあがりました。みなさん、健康で長生きして、今後もセンターの活動にどんどん参加してください。



手芸交流会～広島～

3月14日(日)中国帰国者支援・交流センターで第1回手芸交流会を行いました。これは3回シリーズの交流会で廿日市市のオープン粘土クラブの皆さんと帰国者の特技を教えあう交流会です。第1回・第2回は帰国者が中国結びを教え、第3回はその中国結びとオープン粘土を組み合わせた作品をオープン粘土クラブの皆さんが帰国者に教えます。素敵な作品ができれば、またご紹介します。



健康増進交流会



3月15日(月)広島市で健康増進交流会(ボウリング大会)を行いました。今年で第4回目を迎えたこの大会、広島の帰国者はみんなとても楽しみにしています。回を重ねるごとに、上達し、ボウリング場でのマナーも良くなってきています。参加者最高齢は76歳の藤田武さん、優勝は中山文林さん64歳でした。高齢化なんてどこ吹く風、1世もみんな元気に参加し、清々しい汗を流しました。



地域で活躍する中国帰国者 ～広島 富樫ムツ子さん～

今回は、中国帰国者定着促進センターの遠隔課程、作文コースを修了された富樫ムツ子さんの作文を紹介します

『日本で働きながら学んだ日本語』 富樫ムツ子
私は小学校六年生まで日本の教育を受けています。三十五年間中国人としての生活で、日本語は全部忘れてしまいました。帰国した初めの頃は日本語を新たに学ぶというより、思い出すための勉強でした。小学生レベルの本を読む方法で勉強して、周囲の人と話すようにしていました。ある日、兄と田舎へ出かけた時のこと。「お兄さん私、腹減った」と言いました。すると、兄に「その言葉は男の言葉じゃ。女はおなかですいたと言いなさい」と注意を受けました。その後食品会社に就職しました。仕事は百貨店で「広島名産品」を売ることでした。裏仕事から始め、毎日「いらっしやいませ。ありがとうございます」など繰り返しているうちに、接客もできるようになりました。一緒に働いている責任者は丁寧な敬語を話す人なので、私にはよい手本でした。忙しくなると私もお客さんから注文対応を手伝い「発送伝票」に住所、名前を書きました。これはずいぶん勉強になりました。お昼の時間にはおばさん仲間のおしゃべりをしました。これもなかなか面白い勉強の場でした。その当時、街のキャンも興味を持ちました。通勤の途中あるバス停でのこと。真向いの映画館の外に大きな字で「極道の妻」と書いてあります。私はなにげなく漢文で読みましたが、意味が解りませんでした。何日か過ぎて少し気になり考えてみました。「極」は「極楽寺(ごくらくじ)」の「極(ごく)」であり、「道」は「北海道(ほっかいどう)」の「道(どう)」でもあることに気がつきました。なるほどドラマで見た「極道の妻」か。そうやって自力で発見できたことが面白く嬉しくなりました。60代で仕事をやめてから覚えることより忘れる方が多くなり、勉強は諦めていました。しかし70代になって「漢字ゆっくりコースAB」に出会い、正式に学習を体験してみました。全部覚えたわけではありませんが、確かに勉強になりました。まだまだすてたもんじゃないと思います、苦手な作文の学習を始めました。今は楽しく頑張っています。



4月・5月の予定

- 4月6日 異文化交流会～お花見〔広島市〕
- 4月17日 社会見学交流会〔徳島県・香川県〕

- 4月10日 企業見学交流会〔山口県〕
- 4月25日 手芸交流会〔広島県〕

投稿募集

みなさんからの投稿を募集しています。内容は日々の生活の出来事や中国での思い出、わたしこんな特技がありませす、など何でもかまいません。あなたも「七色花」に記事を書いてみませんか？原稿は400字程度で、持参、郵送、FAX、メールでお願いします。

みなさまからの記事をお待ちしています。

編集後記

広島では桜が満開になり疲れた心を癒してくれています。私が15年前に北京で迎えた春はそれはそれは厳しいものでした。春の訪れというと黄砂で空は黄色く染まり、部屋の中は床も机もザラついて、外に出ると強い風と柳絮(りゅうじょ)が舞い、コンタクトレンズを使用している私は目に入ったゴミのせいでいつも涙を流していました。帰国者のみなさん、日本の春はいかがですか？ (田中)

七色花

【发行者】

中国・四国中国归国者支援・交流中心

社会福祉法人 广岛县社会福祉协议会
〒732-0816 广岛市南区比治山本町 12-2
TEL 082-250-0210
FAX 082-254-2464
E-mail chushikoku-center@festa.ocn.ne.jp

福山地区归国者教室

10月31日(周日)在福山市举办了烹饪交流会,大家一起挑战学做了煎菜饼。无论是烹饪还是品尝,参加者基本上都是初次体验。广岛风味煎菜饼的特点是在摊好的薄面饼上层层叠放各种材料,要点是如何成功的将煎菜饼翻过来。每个人都兴致勃勃的学做着,甚至都忘记了吃煎菜饼。



志愿者研修会~香川县~



2月6日(周日)在香川县高松市举办了研修会。参加者以平素从事归国者支援工作的人士以及一般市民为对象,共计27名。当天有故事朗诵和经历体验谈,听完这些后令不少与会者纷纷落泪。希望通过这样的活动,理解和关心归国者的市民会逐渐增加。

异文化交流会~做日中菜肴~

2月2日(周二)在广岛县廿日市市,归国者与当地的男士烹饪俱乐部一起进行了交流会。大家一起做了什锦寿司饭、油炸牡蛎、樱饼这些日式料理,以及饺子、青椒肉丝、麻婆豆腐等中国菜。之后还表演了歌唱、扭秧歌、打太极拳,最后还撒了节分豆,充实愉快的度过了一天文化交流。



学习发表会



3月1日(周日)在中国归国者支援・交流中心举办了学习发表会。有中心在一年间开设的讲座体验和作品展示,还有歌谣和太极拳的表演,将这一年间的学习成果进行了综合评价。特别是作品和发表内容的水平年年在提高,不由得让人期盼明年的学习发表会早日到来。

岩国地区归国者教室

3月7日(周日)在南岩国市进行了一次健康讲座。在市保健中心工作人员的指导下,对日常的生活习惯进行了重新审视,还和大家一起做了简单的健康体操。在参加者中有着这样的回答「饮食习惯相对来说较为理想,可是烟还是戒不掉」...在此希望大家多多注意健康,有了好的身体才能在今后更多的参加中心的各种活动。



手工艺交流会~广岛~



3月14日(周日)在中国归国者支援・交流中心举办了首次手工艺交流会。这项活动共分3次,通过交流会将廿日市市的粘土烘烤俱乐部的各位成员和归国者的特长进行互相学习。第1回和第2回是归国者负责教大家做中国结,第3回是粘土烘烤俱乐部的成员教归国者制做粘土作品,并将前2次做的中国结与粘土烘烤作品进行组合。精致的作品成功后,还会再通知大家!

促进健康交流会



3月15日(周一)在广岛市举办了促进健康交流会(保龄球大赛)。这一次是中心举办的第4回保龄球大会,广岛的各位归国者早就兴致冲冲的期盼着这次活动。随着参加次数的增加,大家的水平也在不断的提高,对保龄球的比赛规则也适应了很多。参加者中最高龄的是76岁的藤田武先生,优胜由64岁的中山文林先生获得。虽然是在不断向高龄化进军,1代的各位参加者都是神清气爽。



活跃于当地的中国归国者~广岛 富樫睦子女士~

本次向大家介绍参加中国归国者定着促进中心的远程教学-作文讲座,富樫睦子女士的作文。

『在日本工作中学到的日语』

富樫睦子

我在日本一直上到小学六年级。随着之后三十五年的中国生活,日语也都逐渐都忘记了。刚刚回到日本之际,与其说是从头学的日语,不如说是通过回忆而想起的日语。通过阅读小学生水平的书籍,练习读法,来和周围的人进行会话。有一天,和哥哥外出到农村时,我对哥哥说「お兄さん私腹減った(哥哥我肚子饿了)」。这时候,哥哥提醒我说「这种说法是男性说法,女性应该这样说:おなかですいた」。后来在食品公司找到了工作。工作内容是在百货商店卖「广岛名产」。刚开始首先是在店内从事整理工作,每天反复不断的重复「いらっしゃいませ。ありがとうございます」等迎客语,渐渐也能够负责对应顾客的工作了。一起工作的负责人彬彬有礼的日语,成为我学习的好榜样。当工作繁忙时,我也能帮忙处理顾客的订货业务,比如说帮着在「送货单」上书写住址和姓名等。通过这些使我的日语有了很大的长进。午饭时间往往是和大家在一起聊聊天,这也可以说是一项很有趣的日语学习。当时,对街上的广告牌也非常的感兴趣。在上班的途中有个公共汽车站,对面有一家电影院,广告牌上大大的书写着「極道の妻」。我无意中用汉文直译试着念了一下,当然是无法理解了。过了几天想起这件事,又重新考虑了一下。我留意到「極」是「極楽寺(ごくらくじ)」的「極(ごく)」,「道」是「北海道(ほっかいどう)」的「道(どう)」。恍然大悟后又观看了电视剧「極道の妻」。自己通过这样种种发现,日语的学习变得有趣多了。到了60岁后辞去了工作,这之后,学的不如忘的快,所以也就渐渐放弃了学习的念头。到了70岁得知了「慢慢学汉字讲座AB」这门学科,又开始了正式学习。虽然做不到全都能记住,但是的确学到了不少知识。这让我感到还不能放弃啊,之后又开始学习以往比较惧怕的作文练习。现在还在轻松愉快的进行着自勉自学。



4月・5月预定

- 4月6日 异文化交流会~赏花会〔广岛市〕
- 4月17日 社会观摩交流会〔德岛县・香川县〕

- 4月10日 企业参观学习交流会〔山口县〕
- 4月25日 手工艺交流会〔广岛县〕

征集投稿

向大家征集投稿。内容不限,可以是日常生活琐事,也可以是追忆往昔,或者是专项所长。您不希望把自己的文章登载在「七色花」上吗?原稿的字数限400字以内,投稿方式可以是直接送到中心,或者是邮寄、FAX均可。

期盼大家积极踊跃的投稿!

编辑后记

在广岛,每年一到樱花烂漫之际就能让人忘记身心的疲惫。回想起15年前在北京迎来初春时的情景,那可真是严峻的季节啊。伴随着春季的到来,漫天的黄沙将天空染黄,房间里无论是床上还是桌上到处都是沙砾,外出时强风吹得柳絮四处飞舞。这让使用隐形眼镜的我总是因为飞入眼内的灰尘泪流不止。不知回到日本的各位归国者是如何感受日本的春季呢?

(田中)